

文化的景観だより

第三号 平成二十八年六月二十日 発行
発行元 西予市教育委員会文化体育振興課

5/26
(木)

6/11
(土)

6/12
(日)

「狩浜の段々畑と宇和海の
文化的景観（仮称）」の調査、
二年目が始まりしました。

「狩浜地区文化的景観協議会」
が設立されました。

「文化的景観をまもり、活用するしく
み研修会」、「第三回ワークショップ」
が開催されました。

昨年四月にスタートした、明浜町狩浜地区の景観調査は、三ヶ年計画のうち、二年目を迎えました。調査は、狩浜地区を「うみ・さと・やま」のエリアに分けて、自然、歴史、生活・生業の観点から幅広い分野に及びます。

昨年度は、海エリアでは、狩浜の海にどういふ魚や貝がいるか、シラスの大きさが月によってどう変化するか、漁業の経営状態はどうかなどの調査を行いました。里エリアでは、建物の年代や用途を調べたり、水にまつわることや道、秋祭りなどについて調査を行いました。山エリアでは、石垣の特徴や地質について調べました。平成二十八年三月五日には、中間報告会を開催し、住民の皆様これまでの調査成果を報告しました。

本年度も、引き続き調査を行ないます。昨年度の調査を踏まえて、「狩浜らしさ」とはなにかを専門の先生方とともに調査します。そして、今年度末には「狩浜らしさ」「狩浜の景観の価値」を明らかにし、調査報告書を取りまとめる計画です。

なお、来年度は、狩浜らしさを次世代につなぐための保存計画を作成し、地域住民の皆様のご同意を得たうえで、「狩浜の段々畑と宇和海の文化的景観（仮称）」の国重要文化的景観選定の申し出を行なうよう計画を進めています。調査中は、地域の皆様には、有形無形のご支援をいただきました。心から厚く御礼を申し上げますとともに、今後とも引き続きご支援ご協力下さいますようお願い申し上げます。



写真は、磯の生物調査の様子です。ほかに、専門の先生・学生さんたちが狩浜の調査を行います。調査へのご協力をお願いします。

五月二十六日（木）、狩江公民館で、「第一回狩浜地区文化的景観協議会」が開催されました（二十名出席）。

会では、西予市文化体育振興課から、協議会規約（案）についての説明があり、協議の結果、「狩浜地区文化的景観協議会」の設立の運びとなりました。会長には、かりとりもさくの会会長の宇都宮紳二さんが選任されました。委員数は二十六名で、狩浜地区の各団体などの代表者から構成されています。任期は重要文化的景観選定までの期間としています。

今後は、文化的景観に関することについて、調査委員会や市教育委員会と連携して、国重要文化的景観の選定に向けた取組みを推進して行くこととしています。

文化的景観を題材にした狩浜らしい地域の未来像を、自分たちの暮らしに合った形で、次世代につなげていくことができればと思います。

これからは、文化的景観に関する事項について、協議会と意見交換しながら進めて参りたいと考えておりますので、どうかよろしくお願ひします。



協議会の様子

六月十一日（土）に研修会、翌十二日に、第三回のワークショップが行われ、大勢の参加者で盛り上がりました。

研修会では、文化的景観調査委員会の委員長である上杉和央先生（京都府立大学）にお話しいただきました。上杉先生からは、文化的景観は地域の個性（狩浜らしさ）を確かめ、まもることであり、狩浜らしさを高めていく工夫をしていくことが大事だという話がありました。また、文化庁の市原富士夫調査官の話も交えながら、「狩浜らしさ」をまもる仕組み、人のつながりを大事にすること、景観を魅せる工夫などを、よその事例を含め紹介していただきました。

現在は、狩浜らしさを抽出するための調査を行なっているところですが、自分たちの暮らしに合った狩浜らしい未来像を、皆で力を合わせて描き出せればと思います。

翌日は、第三回ワークショップ「第3回うみ・やま・つなぐからはま暮らし」講師狩浜の履歴書づくり」が開催されました。狩浜の古写真と現在の風景を見比べることで、何が違って何が変わっていないのかを確認しました。その作業を通して、未来に残したい狩浜らしさとは何かを考えました（会には約五十名が参加）。

昔の写真を食べい入るように見る人、思い出話に花を咲かせる人、地区の先輩たちの話を熱心に聴く人など、知らなかった地域のことを知る良い機会にもなったようです。また、時折笑い声も聞こえるなど、楽しみながら作業できたのではないかと思います。ご参加くださいました皆様、大変ありがとうございました。



上杉先生にわかりやすく説明していただきました



ワークショップの様子



右端：昔の写真を見て思い出話に花が咲きます。「これはどこ?」「誰?」／上段右：昔の写真を写した場所を尋ね、現在の風景とどう変わっているかを確認しました。／上段中：公民館では、狩浜の暮らしの今と昔のなかで、何がどう変わったか、何が変わっていないかを話し合いました。また、未来に何を残していきたいのかについて相談しました。／上段左：各班ごとに発表しました。／左端：各班でつくった狩浜の履歴書です。地域の自然のほか、地域の行事や祭り、貢献する心、助け合い、心意気などの無形のものを残したいという意見が印象的でした。



狩浜には、狛犬、鳥居、五輪塔、墓石などの様々な石造物があります。市教育委員会では、景観調査の一環で石造物調査を開始しました。

石造物を調べることによって、作られた年代、奉納した人や背景、石工、神社やお寺を整備した年代、他の地域との交流などを明らかにしていきたいと思っています。

調査は、大きさは石材、銘文などを調査する一次調査と、石造物を細かく測る二次調査に分けて行います。九月頃までをめどに考えています。

調査はまだ始まったばかりですが、今のところ次のようなことが分かっています。

- ・ 墓石で一番古いものは、江戸時代前期、元和二年（一六一六）のもの。
- ・ 江戸前期の墓石には、ピンク色がかった花こう岩が使われている。
- ・ 尾道の石工が入ってきている。
- ・ 鎌倉時代や室町時代など、中世の石造物も見られる。石造物以外にも、中世の資料が確認できる。

明らかにした成果については、別途ご報告したいと思っています。地域の皆様には、調査中、大変ご迷惑をおかけしますが、ご協力下さいますようお願いいたします。

狩浜の石造物調査を始めました



狩浜の石造物から

尾道石工 山根惣八

春日神社拝殿前の石段両脇に、尻尾をピンと立て、やや前かがみになった狛犬が居ます。拝殿に向かって右側の狛犬の台座を観察すると、「明治十二年」と刻まれていて、今から百三十七年前に作られたものであることがわかります。もう少しよく見てみると、「広島縣尾道 山根惣八」と刻まれているのを確認できます。

今の広島県尾道市は、江戸時代から明治期にかけて、「尾道石工」と呼ばれる石工衆が活躍したことで知られています。最も繁栄した頃には、遠くは青森県にまで尾道石工の作った石造物があります。

山根惣八は山城屋惣八と名乗っていた頃もあるようで、文政四年（一八二一）から明治十五（一八八二）に活躍し、狛犬を得意としました。

県内では、上島町、今治市、松山市伊方町、宇和島市に彼らの石造物があります。ちなみに西予市内では、宇和町岩木の三瓶神社に「尾道石工 宗八」作の天保七年（一八三六）の狛犬があります。山根惣八らは、「渡りの石工」として活躍した可能性も指摘されています。

「狩浜地区の住民アンケート」ご協力のお願い

7月20日（水）に、アンケート調査の用紙を狩浜地区全戸に配布いたします。文化的景観事業に係る狩浜地区の実態把握の一環として行ないます。

地域のことをできるだけ多く知りたいと思いますので、お忙しいとは思いますが、皆様のご協力のほどよろしくお願い致します。

連絡、お問い合わせ先
 西予市教育委員会 文化体育振興課
 文化振興係 担当：宇都宮、兵頭
 TEL (0894) 62-6416 (課直通)

